祈りの条件　第 4 回

□イントロダクション

聖書は、祈りが神に聞かれるためには、一定の条件を満たす必要がある、と教えている。
たとえば福音書を見ると、イエスが少なくとも次の 3 つの条件を挙げている。
信仰をもって祈ること、イエスのうちにとどまっていること、そして、イエスの名において祈ることである。
2021 年 4 月から、祈りの条件に関する学びに入った。この学びは、大きく二つに分けられる。
第一は、「祈り手に関する条件」
第二は、「**祈り方に関する条件**」：父なる神に、御子を通して、聖霊によって

今回は、第二の「祈り方に関する条件」である。

□「**第二　祈り方に関する条件**」のアウトライン

A)　祈り方の原則
B)　父なる神の役割
C)　御子の役割
D)　聖霊の役割

□A）祈り方の原則

祈り方の原則は、「父なる神に祈る、御子を通して祈る、聖霊によって祈る」である。

1. エペソ 2 : 18　このキリストを通して、私たち二つのものが、一つの御霊によって御父に近づくことができるのです。
   (1) 私たち二つのもの : 17 節に「遠くにいたあなたがた」と「近くにいた人々」、異邦人とユダヤ人を指す
   (2) 18 節には、祈りに関わる神の三つの位格がすべて登場し、祈り方の原則が明確に教えられている
      ① 御父に近づく＝父なる神に祈る
      ② このキリストを通して＝御子を通して祈る
      ③ 一つの御霊によって＝聖霊によって祈る

2. エペソ 3 : 14～17　こういうわけで、私は膝をかがめて、天と地にあるすべての家族の、「家族ギパトリア」という呼び名の元である御父ギパテラの前に祈ります。どうか、御父が、その栄光の豊かさにしたがって、内なる人に働く御霊により、力をもってあなたがたを強めてくださいますように。信仰によって、あなたがたの心のうちにキリストを住まわせてくださいますように。
   (1) 14 節から 17 節には、祈りに関わる神の三つの位格がすべて登場する
      ① 14・15 節　私は膝をかがめて、御父の前に祈ります＝父なる神に祈る
      ② 16 節　内なる人に働く御霊により、あなたがたを強めてくださいますように⇒聖霊によって祈る
         ● 信者は、聖霊によって強められる。祈るためには、聖霊の力を受けることが必要である。
      ③ 17 節　あなたがたの心のうちにキリストを住まわせてくださいますように⇒御子を通して祈る
         ● 信者のうちにキリストが住んでくださっている。これを霊的事実として受け取るときに、信者は確信をもって「御子を通して」、主イエス・キリストの御名によって、祈ることができる。

3. コロサイ 3 : 17　ことばであれ行いであれ、何かをするときには、主イエスによって父なる神に感謝し、すべてを主イエスの名において行いなさい。
   (1) この箇所では、父なる神と御子イエスの 2 つの位格が登場する。
      ① 父なる神に感謝する＝父なる神に祈る
      ② 主イエスによって、主イエスの名において⇒御子を通して祈る

□B）父なる神の役割

祈りは、父なる神に向けて祈る。

1. 祈りの宛先は唯一：父なる神に
   (1) 祈りは、御子や聖霊に向けてはならない。
   (2) 御子に向けての祈りの事例？　使徒 7：59　ステパノは主を呼んで言った、「主イエスよ、私の霊をお受けください。」
      ① これは、祈りというよりも、信者が死に際して発することばである。主イエスに自分の霊を差し出す、ゆだねるということばである。
      ② また、このとき、ステパノは実際にイエスを見ている。使徒 7：55「じっと天を見つめていたステパノは、神の栄光と神の右に立っておられるイエスを見て」・・・ステパノの目にはっきりとイエスが見えたので、「主イエスよ」と呼んだのは自然である。よって、59 節は祈りではない。
      ③ この箇所をもって、イエスに対して祈った事例があるとすることはできない。
   (3) 聖霊に向けての祈りは、聖書には全く記録がない。
   (4) また言うまでもないが、天使に祈る、聖人に祈るといったことも、してはならない。

2. 旧約聖書での祈り
   (1) 旧約聖書では、三位一体の神という概念がまだ明確に啓示されていなかった。よって、旧約聖書では、祈りは、一般的に「主に対して」、「神に対して」である。
   (2) 聖書箇所
      ① 詩 42：8　私のいのちなる神への祈り
      ② 詩 69：13　主よ　あなたに祈ります　神よ　みこころの時に　あなたの豊かな恵みにより　御救いのまことをもって　私に答えてください
      ③ エレミヤ 29：7　その町のために主に祈れ

3. 新約聖書での祈り
   (1) 新約聖書では三位一体の神について教えられ、祈りは明確に父なる神に祈るように命じられている。
   (2) 聖書箇所
      ① マタイ 6：9　天にいます私たちの父よ
      ② ルカ 11：2　父よ
      ③ ヨハネ 15：16　あなたがたがわたしの名によって父に求める
      ④ ヨハネ 16：23　わたしの名によって父に求める
      ⑤ 使徒 4：24　主よ。あなたは天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造

られた方です。

- 4：30　（祈りの結び）「また、御手を伸ばし、癒しとしるしと不思議を行わせてください。あなたの聖なるしもべ、イエスの名を通して」

⑥　エペソ 1：17　どうか、私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。

⑦　エペソ 3：14～15　私は膝をかがめて、（中略）御父の前に祈ります

⑧　エペソ 5：20　いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって、父である神に感謝しなさい。

(3) イエスの祈り・・・イエスの地上生涯の中で、イエスは決して聖霊に向けて祈らなかった。すべて父なる神に祈った。また、ヨハネ 17 章には、十字架につく前の晩、わずかな時間の中で、イエスが立て続けに祈った 6 つの祈りが記されている。その 6 つすべてが、父なる神に宛てた祈りであった。

①　ヨハネ 17：1　父よ

②　ヨハネ 17：5　父よ

③　ヨハネ 17：11　聖なる父よ

④　ヨハネ 17：21　父よ

⑤　ヨハネ 17：24　父よ

⑥　ヨハネ 17：25　正しい父よ

□C）御子の役割

祈りは、御子を通して、御子の名において、祈る。

1.　御子の名において祈ることの意味　４つ

(1)　御子の権威において祈る

①　御子イエスは大祭司となられた。父なる神に近づく権威は、御子イエスが持っておられる（ヘブル 5：5～10、7：24～25）

②　それゆえ信者が父なる神に祈るときには、イエスの御名によって祈る

(2)　御子のために祈る

①　コロ 3：17　（直訳）「ことばであれ行いであれ、何かをするときには、すべてを主イエスの名において行いなさい、主イエスを通して父なる神に感謝しつつ」→　信者は何事をするにしても、自分のためではなく、主イエスのため、主イエスの栄光を求めて行う。同時に、御子を通して父なる神に感謝の祈りをささげながら、行う。

- ピリピ 1：20　私の願いは、どんな場合にも恥じることなく、今もいつものように大胆に語り、生きるにしても死ぬにしても、私の身によってキリストがあがめられることです。
- ヨハネ 17：10　わたしは彼らによって栄光を受けました。

②　祈りも同様である。信者の祈りは、自分のためにではなく、主イエスのため、主イエスの栄光を求めての祈りである。

(3)　御子の権利によって祈る

①　御子は、父なる神が与えたわざを成し遂げて、地上で父の栄光を現わした（ヨハネ 17：4）。その結果、父から栄光を受けられた（17：5）。そして、父が持っておられるものはすべて、御子のものである（16：15）。

②　父なる神は、御子が求めるのであれば、御子のものであるから当然、与えてくださる。よって、信者が御子の名において祈り求めるとき、それは御子の権利の上に立って求めているのである。信者は、自分の行いや働きの上に立って祈るのではない。

③　ヨハネ 16：23　わたしの名によって父に求めるものは何でも、父はあなたがたに与えてくださいます。

(4)　御子にある者という特別な地位に立って祈る

①　新約聖書には、「キリストにあって」、「主イエスにあって」、「イエスにあって」といった表現が頻繁に出てくる。これは、新約時代の教会の信者たちが持つ、

特別な地位を示す表現である。その地位とは、御子にある者という特別な地位であり、教会の真の信者は救われたそのときから、全員がいただいている。

② この地位は、旧約時代の信者たちは**持たない**地位である。また新約時代であっても、教会が携挙されたあとの大患難期や、メシアの再臨によって建設されるメシア王国の時代においては、そのときに信者になる者たちは**持たない**地位である。

③ この地位は単なる肩書ではない。信者の内にキリストが住んでくださるという霊的事実に基づくものである。私たちが祈るときに御子の名において祈るとは、私たちが「御子にある者」であり、御子が私たちの内におられるということを表明することである。

2. 御子の名において祈ることを命じている聖書箇所（ヨハネの福音書から）

(1) ヨハネ 14：13　またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは、何でもそれをしてあげます。父が子によって栄光をお受けになるためです。

- 原文のニュアンスは、「あなたがたがわたしの名によって求めるならば」という条件節。よって、祈りが答えられるためには、イエスの名によって祈る必要がある。

(2) ヨハネ 14：14　あなたがたが、わたしの名によって何かを【わたしに】求めるなら、わたしがそれをしてあげます。

- 【わたしに】原文になし。祈り求める先は、イエスではなく、父なる神
- 13 節と同じことを繰り返し言っているように見えるが、原文のニュアンスは、14 節では、「何かを」＝特別な何か具体的なことを、となる。ここでも、条件は、イエスの名によって祈ることである。
- 祈りに対する答えは、イエスご自身がそれを実行してくださる。そのための条件は、イエスの名によって父に求めることである。

(3) ヨハネ 15:16　また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。

- 祈りの宛先は父なる神である。
- 父なる神は、祈りに答えて信者の求めるものを与えるための条件として、イエスの名によって祈る、ということを定めておられる。

(4) ヨハネ 16：23　まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしの名によって父に求めるものは何でも、父はあなたがたに与えてくださいます。

(5) ヨハネ 16：24　今まで、あなたがたは、わたしの名によって何も求めたことがありません。求めなさい。そうすれば受けます。あなたがたの喜びが満ちあふれるようになるためです。

- この時点までは、誰もイエスの名によって祈ったことはない。しかし、この時点以降は、弟子たちはイエスの名によって祈り求める。
- 神のご計画における時代区分（ディスペンセーション）が転換する。モーセの律法の時代から、新約の恵みの時代への転換である。

(6) ヨハネ 16：26　その日には、あなたがたはわたしの名によって求めます。あなたがたに代わってわたしが父に願う、と言うのではありません。

- 「その日」・・・もう一人の助け主である聖霊が遣わされる日（14：16～17、26、15：26、16：7～15）。ディスペンセーションの転換は「その日」、紀元 30 年の「五旬節の日」（使徒 2：1）

3. 福音書以外で、御子の名において祈ることを命じる代表的な聖書箇所
エペソ 5：20　いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって、父である神に感謝しなさい。

4. イエスは、私たちの大祭司として、私たちのためにとりなし、弁護しておられる
(1) ヘブル 4：14～16、7：25
① 4：14・・・イエスは、天におられる。その役割は、私たちのための大祭司である
② 4：15・・・この大祭司は、「罪は犯しませんでしたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです」、だから「私たちの弱さに同情」できるお方である。地上で誘惑や試練にあっている私たちがどのように感じているかを、よくわかっておられる。
③ 4：16・・・だから、大胆に、恵みの御座に近づこう。イエスが、私たちの大祭司としてそこにおられるから。私たちは、あわれみと恵みを受けることができる。折にかなった助けが与えられる。
④ 7：25・・・イエスは、私たちのためのとりなしをしておられる。ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことができる。
(2) Ⅰヨハ 2：1～2　もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の前でとりなしてくださる方（弁護してくださる方）、義なるイエス・キリストがおられます。この方こそ、私たちの罪のための、いや、私たちの罪だけでなく、世全体の罪のための宥めのささげ物です。

□D）聖霊の役割

祈りは、聖霊によって祈る。

1. 聖霊によって祈るとは
   (1) 聖書は、聖霊によって祈ることを、「聖霊の中において」祈ると表現している。聖霊の中にいて、聖霊と同じ思いや考え方になって、というようなニュアンス。
   (2) 聖霊が祈るのと同じように信者も祈る、それが聖霊によって祈るということ
   (3) そのためには、聖霊の助けが必要である。その意味では、聖霊によって祈るとは、聖霊の力によって祈る、聖霊の助けを受けて祈る、とも言える。

2. 聖書箇所
   (1) エペソ 5：18～20
      ① 18 節　御霊に満たされなさい
         - （直訳）御霊の中に満たされなさい→御霊の中に入れられている状態、御霊と同じ思いや考え方になっている状態。祈りは、これが前提である。
      ② 【補足】19 節は御霊に満たされたときの具体的状況である。直訳すると 2 つ
         - あなたがた自身に語る、詩と賛美と霊の歌をもって
         - 賛美し歌う、あなたがたの心の中で、主に向かって
      ③ 御霊に満たされたうえで、20 節、イエスの名によって父なる神に祈る。
         - 御霊に満たされるならば、御霊と歩調を合わせて、御霊と同じように考えて祈ることになる。
         - 聖霊の働きは、聖書の真理を理解させること（ヨハネ 16：13）。御霊と同じように考えるためには、聖書の理解が必要である。御霊の満たしは、聖書を学び、神のことばを受け取っていくことにもつながる。
   (2) エペソ 6：18　あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのために、目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい。
      - この箇所の文脈は、霊的な戦いの中での祈り
      - 御霊によって→（直訳）「御霊の中にあって」
   (3) ユダ 20　（直訳）「しかし、愛する者たち。あなたがたは自分たちの最も聖なる信仰の上に、自分自身を築き上げなさい、聖霊の中にあって祈りつつ。」
      - 下線部：この箇所の文脈は自分自身を築き上げること、すなわち霊的成長である。私たちが聖霊の中で祈るとき、霊的成長がある。
      - 波線部：自分たちが持っているできる限りの信仰ということではない。原文は「あなたがたの最も聖なる信仰」である。「あなたがたが受け取った、最も聖なる信仰」という意味であり、「聖徒たちにひとたび伝えられ

た信仰」（3 節）を指す。これは、使徒たちの教えである。使徒たちの教えは今や新約聖書となっている。今の私たちにとって霊的成長の基盤は、聖書である。

- 霊的成長は、三位一体の神と関係する。
  - 20 節では、聖霊＝「聖霊の中にあって祈りつつ」。
  - 続く 21 節では、父なる神＝「神の愛の中に自分自身を保つこと」
  - そして、御子＝「永遠のいのちに導く、私たちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望むこと」。これは、教会の携挙を指す。そのとき、私たちは永遠の体に変えられる。

3. 聖霊ご自身も私たち信者のために、そして私たちといっしょに祈ってくださる

(1) ロマ 8：26～27

① 26 節　御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。

- 「助ける」ということばは、ルカ 10：40「私の手伝いをするように」と同じことば。実際的な手助けを意味する。

② 26 節　私たちは何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、とりなしてくださるのです。

- 問題は、私たち信者がどう祈ったらよいか分からないこと。そのとき、御霊がことばにならないうめきをもって、とりなしてくださる。

③ 27 節　人間の心を探る方は、御霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、御霊は神のみこころにしたがって、聖徒たちのためにとりなしてくださるからです。

- 人間の心を探る方とは、父なる神である。
- 父なる神は、聖霊が祈ることに答えてくださる。なぜなら、聖霊は神のみこころにしたがって、聖徒たちのためにとりなすからである。

(2) ガラ 4：6　あなたがたが子であるので、神は、「アバ、父よ」と叫ぶ御子の御霊を、私たちの心に遣わされました。

- 聖霊は、私たちのために、そして私たちといっしょに、「父よ」と叫んで祈ってくださる。

4. 聖霊によって祈るという条件に関連して、導き出される注意点　2 つ

(1) 私たちが聖霊の中にあって祈るなら、神が決してなさらないようなことを祈り求めることはしないはずである。

(2) 私たちが聖霊の中にあって祈るように勧められるということは、その対極には、聖霊によってではなく、人間的な思考や自然感情による祈りがあるということである。